『ヴィヴェーカチューダーマニ』

第 22 節

感覚の客体の不完全さを観察し続ける過程を通して、マインドがそれ自体を無数の客体から繰り返し切り離すことで、マインドが最高のゴールに集中し熟考する時、それがマインドの平穏な境地である。

『ヴィヴェーカチューダーマニ』第 22 節

翻訳 © 2019 SYDA Foundation®. 著作権保有。

『ヴィヴェーカチューダーマニ（識別の宝玉）』からのこの節の中で、平穏なマインドへの道は、「識別」または「洞察」を意味する、ヴィヴェーカの実践にあると、アーディ・シャンカラーチャーリャは教えています。シャンカラーチャーリャが私たちに見分けさせようとしているものは、「不完全さ」を伴う「無数の感覚の客体」と、精神生活の「最高のゴール」との違いです。

この賢人が私たちに観察することを求める「不完全さ」は、世界の物事の無常性と関係があります。若さや肉体的な美しさは必然的に衰えていきます。富や物質的な所有物は現れては消えていきます。人間関係は永続しません。そのようなものの獲得は、永続する満足を決して与えてはくれません。そして結局、そのようなつかの間の享楽は、マインドをかき乱すだけです。はかないものを超えたところに注意を向けることによって、マインドは安らかになるのです。

「最高のゴール」、すなわち至高なる意識との一体性の永遠の境地に集中する時、私たちのマインドは平穏で純粋になると、アーディ・シャンカラーチャーリャは教えています。

ですから、この節の中に私たちは、グルマーイの 2019 年のメッセージを実践するための説得力のある手段を見いだします。「最高のゴールに集中し熟考する」ようマインドを導くことで、私たちはマインドの本質を知るようになります――マインドのまさに源である至高なる意識の光を、純粋に反映する「マインドの平穏な境地」を体験します。永続するものに繰り返し集中することを通して、私たちは自分自身の真の大いなる自己の純粋な光を何度も楽しむのです。

© 2019 SYDA Foundation®. 著作権所有。